アンゼンノマナビ 第102回 防衛乃学

時間の問題…

文 白石茂樹 text by Shigeki Shiraishi

仕事がない、五輪もない…どんよりと暗い未来にしょげてばかりもいられない。無利息・無担保！政府の緊急対策である日本政策金融公庫の新型コロナ特別貸付に泣きついてきた。審査が「少し緩い」だけで、さほどの特別感はない。

夏までの運転資金に充てるつもりだが、ウイルス禍が続くようなら、返済どころかスタッフ解雇と営業所閉鎖が待ち受けており、その先、当然のごとく連帯保証人の自宅マンションも失ってしまう。また、実際には無利息ではないし、連帯保証を求めていれば、無担保という謳い文句もウソっぽく聞こえる。どうやら国を頼りにしては痛い目に合いそうだ。

仕事がない！今まさにウイルスより恐い経済低迷が零細事業者の首を絞めあげ、会社が亡くなるのも「時間の問題」だ。

私は、ここはひとまず質素倹約を旨として、明るく朗らかに身体を鍛えながら、来るべき再開の時に備えることにした。やまない雨はない！と信じて傘をさし続けよう。

平和ボケしたこの国に住んでいると、世界中の首脳が「戦争宣言」しているこのグローバル有事に際してもなお、危機意識の甘さを反省させられる昨今だ。

この程度の致死率でも、未知なる脅威は、世界中を混乱させ、仕事を奪い、日常崩壊に陥れる。新型コロナ程度で！というとお叱りを受けそうだが、そもそも新型インフルエンザ等対策特別措置法は、当時「時間の問題」として恐れられた鳥インフルエンザA（H5N1）を想定して立法化された。H5N1の破壊力は、コロナとは桁違いだからだ。

厚生労働省のHPには、国内で3200万人が感染、最大200万人が入院し64万人が死亡する、と堂々と試算されている。だからこそ世界は今、この未知のウイルスを侮ることなく、最悪を想定して戦争宣言を出した。

H5N1のパンデミックなど、想像するのも恐ろしいが、国は「時間の問題」と言って法律をつくっている。同じく、確率まで明記して「時間の問題」とする巨大地震の数々、再び原発事故が起これば、日本の1／4は住めなくなる。

想像を絶するクライシスを「時間の問題…」と言って他人事のように煽りながら、実のところ、その備えは整っていないし、「そのときが来て…」初めて、国民は不安と絶望に向き合うことになる。

我が国の安全保障上、弾道ミサイルよりH5N1、H5N1より放射能の方が重大なのだ。放射能（原発事故）の脅威は瀕死寸前まで経験したはずだ。H5N1は必ず来る脅威として準備してきたはずだった。

新型コロナのこの苦しい経験を予習として、「H5N1」「放射能」と今一度、真剣に向き合い、その備えを実行しなければ、日本が亡くなるのも「時間の問題…」であろう。

Profile

安全保障・教育評論家／1964年、福岡生まれ。関西学院大学法学部卒業、横浜市役所、議員秘書を経て現職。著書に『概説戦後学校教育』『武徳教育のすすめ』。

美楽での連載を束ねた百念撰集
『雲涯蒼天』
定価 700円
Amazonにて販売中